

考古学研究会の財政状況について

常任委員会

今年度総会で会計報告を行い、会誌前号にも既に詳細を掲載しましたが、会の財政状況は厳しい現状にあります。予算の基本となる会員数は2022年度末で前年度54名減の2,458名。これに基づき計上した2023年度予算では、前年度繰越金を除いた実収入9,940,000円、実支出11,233,000円となり、単年度で1,293,000円の赤字予算になります。

2015年度の会費値上げ後も会員減は続き、ここ数年はコロナ禍に伴う遠隔会議による旅費支出抑制で収入減を吸収していたのが実情です。それらのICT環境を整える支出も少なくありませんでした。会員数を確保すべく、学生会員制度の創出や様々な機会を利用した勧誘など力を尽くしてきたことで、会員数の減少は以前の予想より鈍くなっています。しかし、日本社会全体の人口規模が縮小する中、考古学研究会会員の劇的増加は容易でなく、さらなる会員数減の継続が予想されます。支出は近年とほぼ同じ、会員減少率が現在と同じとしても、現状の会運営では、2028年度に本会計収支が逆転してしまいます(図1)。基金会計も4,500,000円程度で単年度支出に満たず、今後の新

たなICT環境整備に必要となるかもしれません。昨今の経済状況から印刷費をはじめ諸経費の高騰も必至でしょう。

このような会財政予測に対し、会収入を増やすか、事業経費を抑制して会運営を縮小するか、早急に決断しなければなりません。会員数増が難しい現状での会収入増は、単価としての会費値上げがまずあります。収入事業の積極的展開も提起されますが、任意団体としての学会組織では、クリアすべきところが大きく困難が伴います。

他方、会運営の縮小で最も効果的なのは、支出の大半を占める印刷費の縮減、つまり会誌頁数の減ないし刊行回数の減です。これには、常任委員会、全国委員会でも、やむなしという意見と避けるべきという意見の両方があります。

いずれにせよ、次回2024年度総会の議を経て初めて2025年度から具体的処置が行えます。常任委員会において議論を重ね、総会に向けて次号・次々号ではさらに具体的提案を考えています。それに向け会員諸氏からも広く意見を得たく、考古学研究会／SNSの「研究会からのお知らせ」の

カテゴリーに、本文と同名のトピックを用意しました。コメントという形で、考古学研究会の将来展望に幅広い意見をお寄せください。

<https://kokogakukenkkyukai.jp/sns/>

(2023年8月5日)

文責：吉田 広・
高田健一)

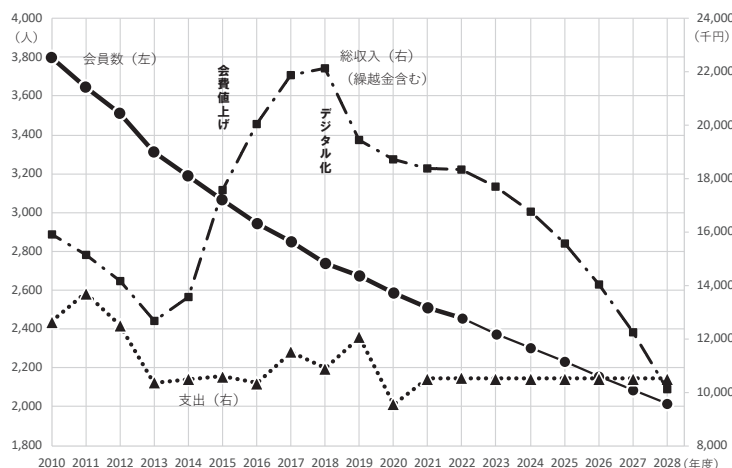


図1 考古学研究会会員数・収支の推移と予測